

魚部ってなんだ？ 井上大輔

県立高校の国語科教諭。1998年に部活動の「魚部」を始める。地域の自然調査の成果をもとに水環境館や自然史博物館で展示をおこない『紫川大図鑑』などの著書を編集出版。2015年度から市内に拠点をつくり「だれでも参加できる新しい魚部」をスタートさせた。これら魚部での活動を通じた自然環境への関わり方を研究し博士論文にまとめるため、北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程に在籍中。



大學堂ってなんだ？ 木下靖子

専門は人類学。南太平洋のパナマ共和国メリック島、フツナ島、沖縄伊良島、石垣島、瀬戸内海鶴島など、島嶼部をフィールドに、人の移動、旅、自然利用に関する知識のありかたを研究している。2008年にオープンした且過市場の大學堂を拠点に、行き交うひとびとと交流しながら、研究活動をおこなっている。竹を組んで作る遊動生活型シェルター「スター★ドーム」の棟梁でもある。



SSTってなんだ？ 命婦恭子

西南女学院大学短期大学部保育科准教授。公立小中学校スクールカウンセラーを兼任。臨床心理士。大学教員として2005年より臨床心理学科、2012年より児童教育学科に勤務し、就学前の子どもたちや子育て中の保護者と接する機会が増えた。児童生徒の心の問題に対応していく中で、就学前の経験の重要性を感じている。2014年に現職に就くことのない北九州市へ赴任、親子参加型のSSTを開発し実施している。



野研ってなんだ？ 竹川大介

大学では探検部に所属し海や山や海外を歩き、大学院では理学部人類進化論研究室で人類学を学ぶ。学生時代を通して、マンガの連載と出版、コンピュータソフトの開発、シンセサイザー奏者、J R西日本フリーペーパー編集、沖縄石垣島での漁師などを遍歴した。1996年より北九州市立大学に赴任し野研を立ち上げる。大学では太平洋島嶼国でのフィールド研究をもとに「わかるとは何か」について講義をしている。



公開シンポジウム

フィールドワーク教育ってなんだ？

TELL ME WHAT
FIELDWORK EDUCATION LOOKS LIKE.



2016年 1月 11日 (祝) 10:00~17:00

新しい教育改革の潮流と、フィールドからの学び

近年の国際化と急速な社会変化に対応するために、大幅な教育の見直しが検討されている。それは従来のような「何を教えるか」という知識の質や量の改善にとどまらず、「どのよう

に学ぶか」という学びの質や深まりに注目した新しい教育改革の流れである。

学校教育法には学力の三要素として「基礎的な知識及び技能」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」が示されている。従来型の系統学習がこのひとつの要素であるとするならば、後者のふたつの要素が新しい改革の柱である。文科省の中教審答申

においても、問題解決型学習(PBL)やアクティブラーニング(AL)など、課題の発見と解決に向け主体的・協働的に学ぶ学習プロセスへの重点化が随所にうたわれている。

これらいわゆる21世紀型スキルは、初等教育から高等教育にいたるそれぞれのプロセスで達成すべき課題として学習指導要領に明示され、とくに高等教育ではグローバル人材育成や環境教育、持続発展教育(ESD)など、新しい社会変化に対応する教育課題への応用が期待されている。

しかし一方で、こうした教育は従来型の多人数で座学中心の教授方法では難しいとされ、多様な状況に即した実践的な学習をどのように進め

ていくのかを、教育現場が模索している現状がある。

さて、これら実践教育のコアとなっているのがフィールドワークである。本シンポジウムでは、これまで一〇年以上にわたり環境教育・技能習得・社会実践・調査研究における分野で数多くの成果を積み上げてきた四名の話者が、「フィールドからの学びはフィールドワーク教育になり得るのか」という視点から、現状に対する批判も含めて、それぞれの活動の背景や実践成果、そしてその可能性について議論する。

井上は、プログラム化された既存の環境教育に対する違和感をもとに、予想外の発見がもたらす自然の楽しみ、さらに活動を通じた社会との関わりについて語る。

命婦は、子育て世代の社会的スキルの希薄さを改善するために、日常的な場を用いたコミュニケーションを通して親子が状況的に人間関係を学んでいく新しい社会的スキルトレーニング(SST)を提案する。

木下は、市場における店舗運営実践を通じた学生たちの知識習得の型を検討し、社会が用意するシナリオと自発的なアドリブとのせめぎ合いの妙味について語る。

竹川は、正統的周辺参加(LPP)の観点から教師の役割として「教えないこと」と「舞台を用意すること」の二点を指摘し、学びにおける個性と創造性の源泉を明らかにする。

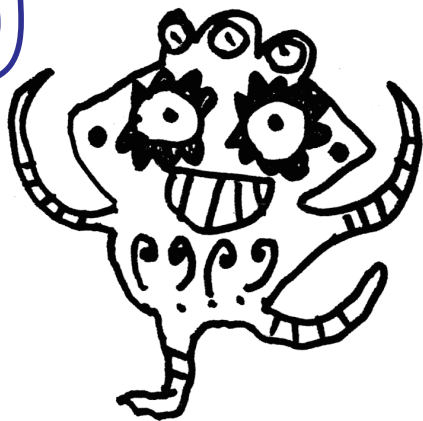
さらに総合討論では、研究や教育の枠を越えた多分野のディスカッションからの問題提起と白熱議論を用

意している。

現在、全国の大学をはじめ多くの教育機関が制度改革を模索している。しかし、皮肉なことに、制度側が目的を設定し手取り足取り準備すればするほど、学びの能動性は失われ、本来の趣旨から乖離していく実態がある。数値目標や参加型評価など安易な方法論に陥ることなく、成果をあげるための実践(学習)とそれを可能にする制度(教育)との距離を真剣に検討する必要があるだろう。

フィールドワーク教育としてのノウハウがあるとすれば、それはどこにあるのか。そうした問いを通して、このシンポジウムのすべての参加者に「誰かに与えられる教育ではなく、自分から求める学び」の一端を感じて欲しいと願っている。

P rogram



2016年 1月11日(祝) 10:00~17:00

10:00-10:50 環境教育再考

井上大輔 ◆生きもの好きが発信する魚部という「場」

10:50-11:40 第3のSST

命婦恭子 ◆市場から人付き合いを学ぶ「たんたんマルシェ」

11:40-12:00 問題提起1

ディスカッション

12:00-13:30 昼休み

ミツバチの巣箱視察

13:30-14:20 市場のテクネー

木下靖子 ◆「大學堂」の実践にみられるシナリオとアドリブ

14:20-15:10 野研という可能性

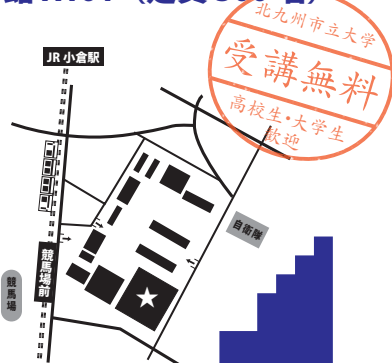
竹川大介 ◆正統的周辺参加によるスキルからアートへ

15:10-15:30 問題提起2

ディスカッション

15:30-17:00 総合討論

北九州市立大学北方キャンパス 本館 A101 (定員 500名)



受講は無料です。

高校生・大学生・教員・興味がある市民の皆様
どなたでも聴講いただけます。

申し込みは不要ですが、資料作成の都合上、
事前にご連絡いただくと幸いです。

演題の一部聴講や途中入室も可能です。
会場へは公共交通機関をご利用下さい。

【問合先】
竹川大介研究室
daisuke@apa-apa.net
093-964-4167

公開シンポジウム
FIELDWORK EDUCATION LOOKS LIKE...
フィールドワーク教育ってなんだ？